

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2375300262		
法人名	株式会社ニーノコーポレーション		
事業所名	グループホームはなえくぼ扶桑		
所在地	愛知県丹羽郡扶桑町大字柏森辻田398		
自己評価作成日	令和5年9月28日	評価結果市町村受理日	令和6年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2375300262-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2375300262-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年10月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者と職員と一緒に調理をしながら、季節の食材を食べる事ができる食事提供を行っている。利用者一人一人にそれぞれの役割を持って頂けるよう、活躍の場を提供している。職員の働きやすい環境を維持できるよう、皆の意見を取り入れやすい人間関係の構築に力を入れている。家族や友人との交流を維持しやすいよう、情報の提供や面会時間など、臨機応変に対応している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

クッキーやゼリーなどの手作りおやつを提供や、日頃の食事が美味しいことで、利用者がホームでの生活を楽しめるようになっている。管理者は、介護計画を意識したケアを実践することで、職員に成功体験を積みせたいと考えている。利用者のより良い方向への変化を体験することが、ケアの質を上げようという職員の意欲につながっている。管理者が的確に指示を出すことで、職員が働きやすいと感じている。職員からは、「出勤することが楽しい」との声があり、職員間の人間関係も良好である。新人職員でも意見が言いやすい雰囲気になっており、働きやすい職場づくりが実現している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや日常の業務の中で職員同士が理念について話し合い実践できるよう努力している。	職員ミーティングで理念について共有し、実践に移せるように務めている。玄関にも理念を掲示し、日常的に職員が意識できる環境にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板が回ったり、地域行事へのお誘いの手紙が届く。散歩時のあいさつや、時々近所の方が声をかけに来て下さる。	コロナ禍によって、一時的に地域行事への参加が難しくなったものの、施設のお便りを送るなど、今も可能な範囲でつながりを持っている。お彼岸には、職員が近隣住民におはぎを持って行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して下さる委員さんたちとの話しの中で、相談に乗ったりお伝えできることを話している。はなえくぼ便りの中で、認知症の方との関わり方のアドバイスをお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者さんの日常の様子や行事の様子等、写真を使って話している。また、事例をあげて報告もしている。また、参加者の質問にも答えている。	対面の運営推進会議に戻ったが、会場の広さに制限があるため、人数を調整して運営推進会議を継続している。発展性を持たせたいという意向の下、運営推進会議が進められている。	参加者から意見を吸い上げる取組を行うことが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査の際に町の担当者にホームの状況等を話している。	制度が変わるたびに行政へ問い合わせ、適正な運営に繋げる取組みがなされている。町役場の福祉課と連携して、生活保護を受給する利用者の財産の事後処理を行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に一度、代表者と各事業所の管理者で、身体拘束適正化に関する検討会を実施、その内容を事業所に持ち帰り、職員に周知するようにしている。事業所内でも年2回の研修を実施し、継続的に身体拘束につながらないケアについて話し合っている。	2ヶ月に一度、職員意識をすり合わせるために話し合いを行い、法人内の各事業所にフィードバックしている。言い替えの研修を行うことで、スピーチロックにならない支援が実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングを活用し、虐待防止についての勉強会や、セルフチェック表を使って職員間の価値観にずれがないかを振り返っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に成年後見人制度について学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に運営者や管理者が十分に説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に日常の様子を話すと共に、介護記録にも目を通して頂いている。また、ご家族の要望も伺い職員間で共有している。	家族面会時に、利用者の日常的な様子を伝え、意見をもらいやすい関係づくりが行われている。家族からの意見はホーム内で共有され、次に会った時にフィードバックを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで職員の意見を聞いている。また、個別面談を実施したり日常的に声かけし、一人ひとりの意見を聞くようにしている。	大事な意見はミーティングで聞いている。個人面談を取り入れ、職員からの意見の吸い上げに努めている。管理者が、職員にまんべんなく話しかけ、職員が孤立しないよう関わりを持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与に関しては代表者より話がある。また、各々休憩時間をとると共になるべく定時間に退社できるよう心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にはできるだけ参加し、報告書の提出と共にミーティングで発表している。また、ホーム内での研修も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナで直接の交流機会は減ったが、オンラインの勉強会の情報を共有するなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時に出来るかぎり声をかけてお話を伺うようにしている。なかなか意見を伺うことはできないが、安心して頂けるよう穏やかな雰囲気を作れるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時にお話を伺っている。そのうえで、施設としてできることを提示しご理解を頂いている。また、こまめに連絡を取り、ご家族の不安を軽減するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の際に、できるだけ家族、本人の困りごとを聞き、必要なサービス等の情報をお伝えするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や壁紙など、一緒に作業することによって関係を作っている。掃除や洗濯なども一緒に行うようにしている。テレビや動画なども一緒に見ながら意見を交換したりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の様子報告と、写真を毎月届けることができている。面会時に様子をお伝えしたり、様子に変化が見られた際には電話をしたり手紙を書いたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人の訪問や外出は一定の規則を作って行っている。少しずつ地域の行事も開催されるようになってきており、参加できる機会を作っている。	介護計画に、人間関係(馴染み)の継続を入れている利用者がいたり、家族ぐるみの友人がホームを訪れたりしている。外出行事の際に、利用者の友人を誘う計画を立てている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で情報共有し、利用者の関係性を把握できるようにしている。それによって必要な時にはリビングの席替えを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な場合はお手紙を送ったり、お話を伺ったりできている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接お話を伺い、職員間で共有したり、日常の様子を見ながら意向の把握に努めている。何がご本人にとって良いことなのかを検討し実践できるようにしている。	利用者との日常会話や表情、しぐさ、生活歴を基に、利用者に何がしたいのかを聞き、ホームでの活躍の場に繋げている。ホームで楽しく生活するにはどうしたらよいかを、利用者に聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	特に入浴時など、マンツーマンのゆっくりした時間が取れるときにご本人とこれまでのお話を伺うことができている。それを記録にのこす。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や申し送りで職員間で情報共有をし、状況把握ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向をお聞きし、ミーティング内でアセスメントを行い、それを元に介護計画を作成している。	職員ミーティングで情報を持ち寄り、介護計画に反映させる取組みが実践されている。管理者が中心となり、どうしたら利用者が笑顔で暮らせるかを話し合い、個別性のある介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を毎日しっかり記録している。それを元に話し合い、見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に合わせて対応を変えている。必要な物品の購入などを代わりに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容店の訪問理容を活用したり、音楽療法、訪問歯科などのサービスを積極的に利用している。また、隣の保育園児との交流も出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の訪問看護、月2回の内科往診、その他、精神科や皮膚科、歯科などの往診も受けることができている。ご希望により、ご家族によるかかりつけ医の受診も支援している。	従来からのかかりつけ医を継続して利用している利用者が2名いる。協力医と訪問看護、調剤薬局が連携しており、適切な医療を受けられる体制が整っている。調剤薬局が、薬を一括管理している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの24時間連携により、いつでも看護師に相談できる体制ができている。主治医からの指示書により訪問看護も受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員さんと電話やファックスでの情報交換を行っている。 施設からの情報提供は始めに文書をお渡しできるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化や終末期の指針についてご説明し、意向確認を行っている。また、状況をみながら、都度ご家族、訪問看護、医師と話し合い、方向性を話し合うことができている。また、それは変更もできることも伝えている。	看取りの際には、管理者が職員へ適宜指示を出している。看取りを行った後に振り返りを行い、職員の満足度を上げながら、もっとできることはないかという考えを引き出している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故やケガがあったときには、その対応を職員に報告するようにしている。また、経験がない職員にはその時に立ち合って経験できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いの避難訓練・消化訓練を行っている それ以外にも避難訓練を行っている。	災害時に持ち出す個人情報、ファイルにまとめられている。災害備蓄は、法人内の事業所が協力して蓄えている。被災時は、火災を除いてホームに留まることを計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の状況に合わせて声掛けができるようにしている。 尊重・プライバシーについては研修を行っている。	利用者の権利擁護について、ミーティングの時間を活用して研修を行い、職員の意識付けをしている。利用者の個性に着目して、利用者本位の支援(見守り)を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中でご希望を聞けるようにしたり、 それを実践できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事時間など可能な限り希望に添えるようにしている。夜間にも軽食が提供できるように準備してある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば髪染めなども行っている。 できる限り毎日の着替えはご本人にお任せしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、盛り付けなどのお手伝いをお願いしている。食後の食器拭きもお願い出来ている。	入居時のアセスメントで、嗜好を把握している。利用者に、今日食べたいものの希望を聞き、誕生日にはオードブルが提供される。旬の野菜の提供に努め、正月にはお節、土用丑の日には鰻を提供するなど、季節を感じる事ができる食事内容となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量。水分摂取量は個々に記録し把握できるようにしている。食べられるもの、飲んで頂ける物の情報も職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。 訪問歯科を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレ誘導を行っている。それがリハビリにもなっていると思う。 排泄状況は記録し職員間で共有できている。	利用者にできることは自分でしてもらい、できない部分のみ介助を行っている。利用者と職員の立ち位置を考え、安定した姿勢で便器に座ったら利用者の視界から外れ、羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を行っている。 便秘気味な場合は牛乳や豆乳などを飲んで頂いたりして排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の体力に合わせてたり、ご希望を伺える時には伺ったりしている。夕方の入浴に拒否が強い方には夜間の入浴なども行っている。	利用者のADLに合わせた入浴を支援している。入浴中に話しかけたり一緒に歌を歌ったりして、コミュニケーションの場としている。利用者から、家にいた時の話やホームでの話をしてもらえる関係ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の体調に合わせて休んで頂いている。室温にも注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての表を常に掲示している。 変更があったときにはその理由も含めて職員に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人に合わせて塗り絵や動画鑑賞ができるようにしている。料理のお手伝いや掃除、散歩などできることをできるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族に協力して頂き、外出して頂いている。 地域の行事が始まっているので、参加できるような支援を行っている。	毎日、ホームの周りを散歩しており、近隣住民とあいさつや会話をしている。外に行きたくない利用者には、時間を空けて声掛けを行っている。利用者と一緒に買い物に行ったり、レクリエーションでカラオケに行ったりランチをしたりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にはお小遣いを持って頂き、自由に使っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族とのお電話については希望があれば取り次いだり、オンライン面会をしたりしている。ご自分の携帯電話を使われている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が飾れている環境づくりをしている。壁紙も利用者さんと一緒に作り、季節を感じて頂いている。清掃も1日回行い清潔に保てるようにしている。	利用者がレクリエーションで作ったものや職員の作ったものを掲示して、季節を感じられる環境を整えている。掃除機かけや手すり拭きなど、可能な範囲で、利用者にも掃除を手伝ってもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士で外出したり、食事ができるようにしている。居室で静かに過ごすことも出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や布団は使い慣れたもの。あるいはお好きな物を購入して使用して頂いている。動物の写真やご自分の作品を飾って頂いている。	神棚やテレビ、ソファを持ち込んでいる利用者がある。夫婦で入居している利用者が、同じ部屋で過ごすことができ、ホームで楽しく生活を営んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じてトイレの位置を掲示したり、手すりを増設したりしている。ベランダに花壇を作り、水やりや花を自由に摘んだりできるようにしている。		